

目の不自由な人達のもの — 盲導犬 —

38期生

I テーマ設定の理由

小学校1年生の時、近くの聾唖学校に通っている人と、友達になった。そして可哀想だという印象をもった。ところが、目の見えない人のほうがもっと可哀想だということを知り、今の社会は、どのように、これらの人々を見ているかということで、目の見えない人を中心に、特に、興味のある盲導犬のことを中心に調べてみようと思った。

II 研究方法

- (1) 文献で予備知識を高める
- (2) アンケート用紙作成
- (3) アンケート調査
- (4) まとめる

III 研究結果

(1) 予備知識

(1) 盲導犬について

～その1～ 一生

- ① 生後二ヶ月ぐらいで、^{※1}パピーウォーカーへ預けられる。
- ② 一年後に訓練所へもどる。
- ③ 町へ出て、盲導犬になれるかテストする。
- ④ 合格した犬だけが、^{※2}基礎訓練を受ける。
- ⑤ 基礎訓練を終えると、^{※3}不服従の服従の訓練を受ける。
- ⑥ 盲人といっしょに歩く。
- ⑦ 盲人のもとで働く。
- ⑧ 働けなくなると訓練所へもどる。
- ⑨ 余生を過ごす。

- ※ 1. 一年間、子犬を預かる家庭のこと。
- ※ 2. 止まる、曲がるなどの動作を覚えてませる訓練。
- ※ 3. 主人に危険があった場合、命令にそむいても、主人を助ける。

～その2～ 犬の種類・性格・数

- ・種類 ラブラドルリトリバー、シェパード
- ・性格 ・ラブラドルリトリバー …… 比較のおっとりしている。
・シェパード …… 鋭いが、物覚えがよい。

- ・数 ・日本 …… 約400頭 ・イギリス …… 約4千頭
・アメリカ …… 約1万2千頭

(2) 訓練士について

1人前の訓練士になるためには、3年間勉強をしなくてはならない。最初の1年間は犬のこと、2年目は盲人の方について、3年目でやっと犬にさわることができるという。

訓練士の資格としては、第1に犬好きであること、第2に健康であること、第3に忍耐強いことだそう。ところが、訓練士になりたいと来る人のうち、ほとんどは、2、3カ月でやめてしまう。勉強が辛い事と、その間、給料がもらえないことが原因だそう。

1人前の訓練士でも、国の財政の関係で、2ヶ月も3ヶ月ももらえないときがある。

(2) アンケート用紙作成

盲導犬についてのアンケート

年齢 才 男・女

1. あなたは今までに盲導犬を見たことがありますか？
ある ・ ない
2. 現在、目が不自由で、盲導犬を欲しがっている人が、3万人以上もいますが、日本には何頭ぐらいいると思いますか？
頭ぐらい
3. 身体の不自由な人のための設備にはどんなものがありますか？
[]
4. 今後、さらにどんな設備ができればよいと思いますか？
[]
5. 日本は、他の国に比べて、盲導犬の数が少ない国です。今後、もっと増やすには、どんなことをすればよいと思いますか？
[]
6. 身体が不自由な人のために、今の社会はどのようにすればよいと思いますか？
あらゆる面から答えて下さい。(例：国、市、個人など)
[]

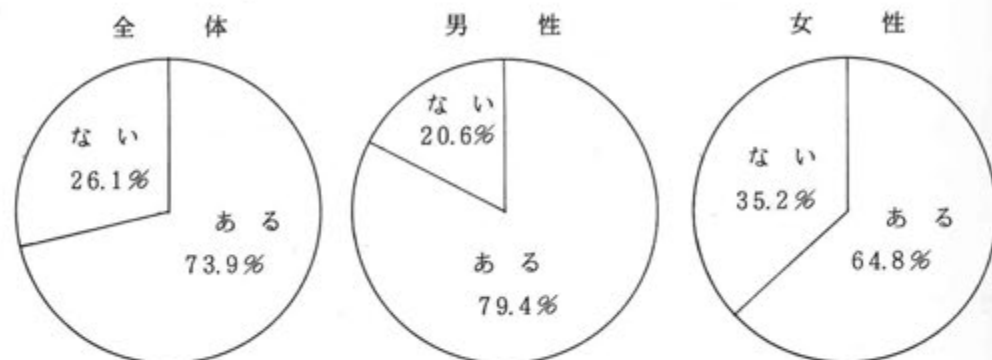
(3) アンケート調査

回答者 大阪市役所 46名

・アンケート調査結果

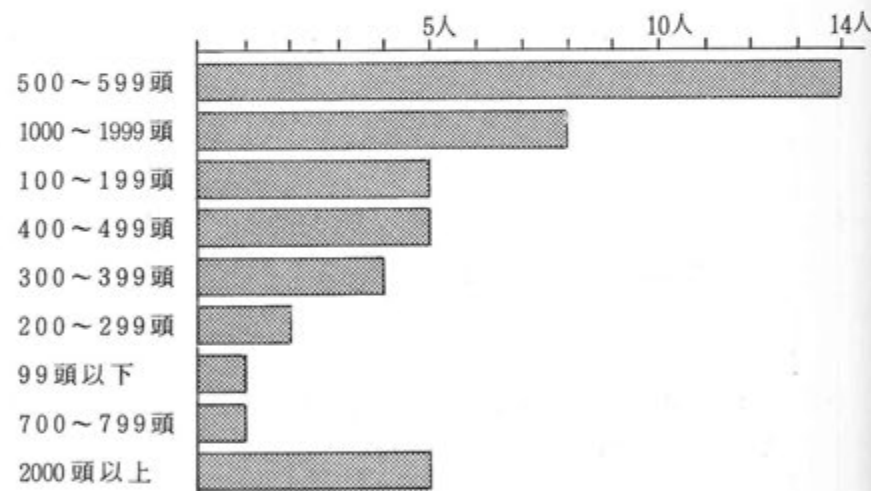
1. あなたは今までに盲導犬を見たことがありますか？

～男女別～



約3/4の人が、見たことがあると知っている。男女別では、女性の方が人数が少なかったため、確かなことはわからないが、もっと人数が多ければ、男性とほとんど変わらないと思う。最近、女性が社会へ出る機会がふえたことも、このことに関係するのではないだろうか？

2. 現在、目が不自由で、盲導犬を欲しがっている人が、3万人以上もいますが、日本には何頭ぐらいいると思いますか。



上のグラフを見てのとおり、500頭～599頭が圧倒的に多い。私はいい線をしていると思う。なぜならば、現在は364頭(1983年度)だからだ。これはたぶん、市役所に勤めているからかなあと思った。それから、もっと楽しかったのは、60頭と答えたものから3万頭というものまであったことだ。60頭は5で「少ない」と書いてあるのをわきまえているし、3万頭というのは、欲しがっている人が3万人だからということで、書いたのかもわからない。

3. 身体の不自由な人のための設備にはどんなものがありますか？

盲人用信号機	32人
点字ブロック	31人
※スロープ	23人
エレベーター	19人
トイレ	18人
リハビリテーション	11人
点字	10人
身体障害者	
スポーツセンター	8人
自動販売機	6人
その他	13人

表の通り、目に付きやすいものが圧倒的に多い。だいたいのは、私が思っていたことと同じだったが、自動販売機の指摘が少なかったことにはおどろいた。その他の中には、入浴車や昇降機などが挙げられる。1つ残念だったことは、「補聴器」などがなかったことだ。そんなに目に付かないものだろうか？

※スロープ……歩道橋などにある傾斜のこと。

4. 今後、さらにどんな設備ができればよいと思いますか？

今の設備を増やす	11人
自由に歩ける機械	6人
人々の思いやり	5人
音声による施設案内	2人
在宅勤務システム	2人
スポーツセンター	2人
相談テレフォン	1人
人工生体器の開発	1人
残った能力を	
ひきのばす機械	1人
遊び道具	1人

私はこの問題をととても楽しみにしていた。思った通り、おもしろい意見が出たが、その反面無回答が多かった。

1番多かった「今の設備を増やす」というのはもっともだと思う。ただでさえ少ないのに、他のものにまで手を出せば、中途半端になるのではないだろうか？と、少なくとも私はそう思う。

3番目に多かった、「人々の思いやり」だが、はじめ、「設備」と書いたので除外しようかと思ったのだが、数が多いので一応、入れておいた。

5. 日本は、他の国に比べて、盲導犬の数が少ない国です。今後、もっとふやすにはどんなことをすればよいと思いますか？

訓練所をふやす	28人	訓練士を増やす	6人
国、市の補助金を増やす	12人	PRする	6人
盲導犬を多く飼育する	14人	犬の値段を安くする	3人

圧倒的に多い「訓練所を増やす」だが、これは次の「国、市の補助金を増やす」というものに関係する。国、市の補助金といっても限度がある。足りない分を大阪市民だけでまかなうとすると、1人100円として考えてみても、たった2億7千万円しか集まらない。これだけでは訓練所は1つも建設できないようだ。

「盲導犬を多く飼育する」だが、これも「訓練所を増やす」「訓練士を増やす」と関係する。「訓練士を増やす」といっても、3年も勉強しても何もくれないのだから、金銭におぼれている現在にとって、つらい仕事ではないだろうか？ そうすると、今後さらに人数が減少するのではないだろうか？

全体を通して言うと、一見簡単そうで難しい回答を出してもらった。実は私も最初は「土地とお金さえあればできるのになあ」と思っていたが、いざ、まとめようとなると、難しいと実感した。

6. 身体が不自由な人のために、今の社会はどのようにすればよいと思いますか？

あらゆる面から答えて下さい。

1番多い意見としては、「相手の身になる」ということだった。その中の具体例としては、「個人個人が相手の立場に立って助け合っていかなければならない。」「国民全体が身体の不自由な人をいたわる気もちが必要」などとたくさんあった。私の意見としては、何も健常者と障害者との問題でなく、差別の場合もそうだと思う。表面だけで、勝手に分けてしまうのは、相手の気持ちを考えないものの典型的なものではないだろうか。そのほか、差別についての意見には、「障害者、健常者の区別なく、お互い理解を深めながら、特別扱いをしないで、共に助け合って生きる」「ある程度の費用は仕方ないが、やはり個人で負担する金額も大きいので、一部、国や市などで援助してほしいし、そういう訓練施設を国などが担当すれば、もっと手に入れやすくなるかも知れない。（理由のわからない所に税金を使われるより、ずっと大切な事だから）また、レストラン等では、他のお客にめいわくだからと、盲導犬を連れて店に入るのを断る所があるが、そういう考えを根本的に改めていくべきだと思う」と、強力なものも多かった。私はこの意見に大賛成である。公共の施設（博物館など）は障害者のことをわきまえているが、レストラン等の個人営業の商店では断るところも少なくない。それに世間の目が冷たく、見て見ぬふりをする人もいる。やはり、もっと理解し、いたわるべきだと思う。ただし、その時に同情だけはしてはいけない。

Ⅳ 結論

日本に盲導犬が少ないのは、社会福祉の水準が低く、PR不足、思いやりの心が無いということが挙げられる。それをなくすためには、まず個人がもっと理解し、それを行動に移していかななくてはならない。将来、日本はそうしなければ、悪くなる一方だと考えると「やはり私達がやらなくては」と思う。

Ⅴ 総括

(1) 感想

はっきり言うと、夏休みも終わりに近づいてから、ドタバタとしたので、内容の薄いものになってしまった。それに、始めに調べたかったことが十分に調べられなかった。ところが、こんな中でもいろいろなことを身につけることができた。たとえば、社会人の考え方である。軽薄な人もいれば、そうでない人もいる。アンケート1つ見ても、ぎっしり書く人や無回答の多い人などいろいろだ。何事にも真剣に取り組むことが、こんなにも差ができるのだと、つくづく感じた。それから、この研究を通して障害者の人のことも少しわかったような気がする。人の目をさげようとせず、堂々と誇りを持って生きている障害者の人達に対して、小さい事にクヨクヨするような、今の社会は、情けないと思う。同じ人間なのに、なぜこんなにちがうのだろうか？ やはり人間には体験しなければわからないことが、まだまだたくさんあるのだなあと思う。

(2) 反省

やはり、アンケート調査で、数が少なかったということだ。数が少ないと、より確かなデータが出ないので、派出所もまわったが、仕事なのでと、みんな断われた。それから、アンケートの内容が難しすぎると言われた。今度からは、もっとわかりやすく作ろうと思う。

(3) 残された課題

この調査をもとに、訓練センターへ行き、結果について話してもらおう。そして、目の不自由な人のアンケートをとるなど、その他いろいろなことをやっていきたいと思う。

参考文献

- がんばれ！盲導犬サーブ（講談社）
- ぼくは盲導犬チャンピオン（偕成社文庫）